

授業科目

作業療法の理論

【担当教員名】 岩崎テル子	対象学年	4	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15
【一般目標：G I O】 根拠に基づく作業療法（EBOT）は理論に支えられ初めて実践できることを理解する。				
【行動目標：S B O】				
<ol style="list-style-type: none"> 専門職の位置づけと理論との関係を説明できる。 臨床における理論の使われ方（理論的推論と臨床の推論）を実例を通して述べることができる。 代表的作業療法理論について述べることができる。 作業療法における問題の問い合わせ（評価）答え方（治療）の実例を代表的理論から抽出することができる。 作業療法理論の歴史的変遷について述べることができる。 				
回数	授業計画又は学習の主題	SBO	番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	専門職の位置づけ（Moseyの作業療法の輪郭・専門職モデルの構成要素）	1	講義・討論	
2	臨床における理論の使われ方（理論的推論と臨床の推論－効果判定と予後予測）	2	講義・討論	
3	作業療法理論の歴史的変遷と各理論のレベル	3, 5	講義	
4	同上	3, 5	講義	
5	総合臨床実習で使われた理論的背景（キーワードで搜す）	4	演習・討議	
6	日本の作業療法で多く使われている理論（前提－概念－定義）	4, 5	演習・討議・講義	
7	日本独自の理論は生まれるか（西欧の理論との文化的な相違とは）	1	討議・講義	
【使用図書】				
教科書	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
	作業療法実践のための6つの理論	岩崎テル子監訳	協同医書出版	1996 3,296円
参考書	①作業療法の理論	山田孝・小西紀一訳	協同医書出版、	1993, 6,500円
	②人間作業療法モデル第2版	山田孝監訳	協同医書出版	1999 5,800円
その他の資料	随時配布			
【評価方法】	【履修上の留意点】 理論は実践を導く羅針盤であることを理解し、難しく考えず取り組んで欲しい。			
出席点：10% 討議・演習・レポート90%				